

りんご園地で作業をする今泉さん
(清掃活動の最終日に撮影)

特集

ボランティアの底力

あなたの一歩が、まちを動かす

ボランティア活動は、社会が円滑に回っていくための潤滑油。活動の一つ一つは地道で目立たないものが大半かもしれませんが、積み重なることで社会が良くなり、結果的に自分自身やみんなの暮らしを良くする、大きな力になります。

今号は「ボランティア」に焦点を当て、ボランティア活動に関わった人の声や、市のボランティア支援などを紹介します。

■問い合わせ先 ひろさきボランティアセンター (☎ 38-5595)

大雨で被災したりんご園主

今泉 長務さん

被災から復旧へ

被災した直後は、もうショックで…。増水した川が、ただ怖かった。ここまでひどい被害は初めての事です。

雨が止んでも1週間ほどは水が溜まっていた、水が引いても泥がぬかるんで車で近づけず、泥が固まるのを待って、やっと作業が始められるようになりました。ボランティアの皆さんと木に絡みついた枯れ草やごみを落とし、流れついた大きな木片を片づけることから始めて…。泥の中での大変な作業でしたが、皆さんのおかげで、今では被災直後の頃と景色が全く変わりました。

感謝を胸に、木を守り続ける

手伝ってくださった皆さんには、本当に感謝しかありません。たくさんの方が来てくれたのを見て「頑張らねばまいな」と前向きになることができました。自分一人でやっていたら、作業面だけでなく、気持ちの面でも、ここまで立て直せなかったと思います。皆さんの助けで、やっとここまで来られました。

一度川に浸かったりんごはもう市場に出せませんし、来年も無事にりんごが実るかはわかりません。それでも、実をつけてくれることを祈って、木を守り続けていきます。ボランティアは終了となりましたが、作業はまだまだ続きますので、頑張ります。

りんご園地の清掃活動に毎週参加

石岡正樹さん・友紀さん (市内在住)



現場に入って初めてわかった状況

県外の人に「青森県のイメージは？」と尋ねると、多くが「りんご」と答えると思います。でも実状は後継者不足や人手不足で、廃業するりんご農家も出ている状況です。そんな中でりんごの大雨被害をニュースで知り、被災した農家の力になりたいと、夫婦でボランティアに応募しました。

当初は、初日に半日だけ参加する予定でしたが、現場に入って、泥を被ってごみが絡まった木や、大量に落ちた実を目の当たりにし、映像を見て想像していた以上に、状況は深刻だと感じました。それで、「半日ではとても足りない。次も行こう」と、毎週参加することにしたんです。

活動を通して生じた心の変化

台風などで天候が荒れると、これまでは「りんご、大丈夫かな」と思っていたのですが、今では手伝った畑の人の顔が浮かんで「〇〇さんの畑、大丈夫かな」と案じるようになりました。農家の人と作業を共にしたことで、農家の人の方が今までより近い存在になった気がします。

今回、初めてのボランティア参加でしたが、今後も誰かの手助けができる機会があれば、微力ながら、また参加できればと思っています。

災害ボランティアで生まれた心のやりとり

今年8月上旬に県内を襲った記録的な豪雨。弘前市では約300ヘクタールのりんご園地が浸水被害を受けました。

被災した園地の清掃作業のため、市ではボランティアを募集。8月6日～9月25日の期間に、27回にわたって延べ874人が参加する大規模なボランティア活動となりました。



▲集まったボランティアの参加者



▲りんご園主から参加者に作業を説明



▲地元ライオンズクラブによる炊き出し